

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100435
法人名	株式会社 ことぶき
事業所名	グループホームゆずはなの里
所在地	松山市古三津3丁目17番5号
自己評価作成日	平成25年9月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当ホームは2階建ての民家を改装してグループホームをして利用しています。少人数で生活されているので、職員と利用者・利用者同士の関係つくりにとり組み、家庭的な雰囲気・馴染みの関係が、できるように努力はしている。</p> <p>小さい庭には、家庭菜園や季節の花を植えて、季節感を感じてもらえるようにしている。今年はスイカを作りました。</p> <p>季節間をとりいれて、季節の掲示物を職員と利用者が一緒に作っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>散歩時には、運営推進会議を通じて知り合いになった近所の方とあいさつや立ち話をされたり、よく利用する近所のコンビニの店員の方と仲良くなった方もいる。花がお好きな利用者には、公民館で行われている地域のフラワーアレンジメント教室に参加できるよう支援されたり、事業所で行った敬老会の際には、ご家族が所属しているオカリナサークルや地域の三味線サークルの方がボランティアで来て演奏して下さった。事業所のクリスマス会の折には、地域の幼稚園の園児が来て歌を歌ってくれる等、利用者といふれ合われた。</p> <p>利用者の幼なじみの方が来られた時には、一緒に写真を撮って暑中見舞い等にして送る等されている。ハガキには、利用者と職員からメッセージを書いて、訪ねて来て下さったこと等への感謝の気持ちを伝えられるようにサポートされている。又、年賀状をご家族や友人に出せるよう支援されている。以前、商店街によく出かけていた方は、時々出かけるよう支援しておられ、馴染みのお店の方が声をかけて下さったり、お友達と会うこともあるようだ。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームゆずはなの里

(ユニット名) ゆずはなの里

記入者(管理者)

氏名 中田 明伸

評価完了日

平成25年 9月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は「愛」です。理念に基づき介護に取り組んでいる。また、事業所のケア目標・職員一人一人目標を立て、職員と共有して仕事に取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人代表は、「愛」の理念のもと、利用者の「安心・安全・安寧」に向けて、「支えあう心を持ち、支援に取り組んでほしい」と話されている。職員は、理念の実践に向けて個々に目標を立て取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会に加盟している。昨年組長を行ったことで地域とのつながりができてきたと思う。また、地域の行事にも参加して、付き合いをしている。推進会議には、町内から2名の参加はあり、事業所との繋がりは継続している。利用者と外出・散歩をする時は、地域の人と挨拶・会話をしている。	
			(外部評価) 散歩時には、運営推進会議を通じて知り合いになった近所の方とあいさつや立ち話をされたり、よく利用する近所のコンビニの店員の方と仲良くなった方もいる。花がお好きな利用者には、公民館で行われている地域のフラワーアレンジメント教室に参加できるよう支援されたり、事業所で行った敬老会の際には、ご家族が所属しているオカリナサークルや地域の三味線サークルの方がボランティアで来て演奏してくださった。事業所のクリスマス会の折には、地域の幼稚園の園児が来て歌を歌ってくれる等、利用者とはふれ合われた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会などホームを訪れた地域の人に支援方法を説明して、地域の人にも理解が広がっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヵ月に1回開催している。松山市介護保険課・包括支援センター・地域の代表・利用者が参加して頂き、意見交換を行い、サービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 会議では、事業所から行事や日々の活動、又、外部評価結果後の取り組みや目標について報告されている。町内会長から、地域の現状を話していただいたり、消防署の方に参加していただき、事業所が実施した避難訓練の様子を報告し、課題についてはアドバイス等をいただいた。現在、ご家族は、ご都合もあって会議に参加いただくことが難しいようだ。玄関に置いている会議議事録を見られるご家族も少ないようだ。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課担当者が推進会議に出席して、感染症の流行状況のアドバイスをもらい、ケアにつなげている。包括支援センターでは、連絡会などに参加して、他の事業所と問題点を話しあっている。事業所に持ち帰り、ケアサービスにつながるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 地域包括支援センターから案内をいただいた「食の研修」に管理者が参加され、センターの方から「ホームでも手作りの食事に取り組んではいかがでしょうか」と言葉をかけてもらったようだ。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の正しい知識を学び、勉強会を行い、職員全員で理解して、取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない、夜間は防犯を重視して、施錠を行っている。	
			(外部評価) 今年4月に、「身体・言葉・精神的拘束・虐待について」事業所で学習会が行われた。帰りたい思いが強い利用者が、落ち着かない様子の中には、職員から買い物等にお誘いして、外に出かけられるよう支援されている。職員は、利用者が納得するまで歩く等して見守り、ご本人の落ち着いた様子がみられた時に声をかけて、事業所に戻れるよう対応されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員間で常に話しあっている。また、職員一人ひとりが学習している。虐待を見逃さない様に、利用者の身体観察をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおられる。後見人が(社会福祉協議会)月1回面会に来られている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の際に、利用者又は家族に対し、パンフレットや契約書等で詳しく説明し、同意を得ている。また、不明な点があれば、その都度連絡をして頂く様にお願いをしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に、家族が来られた時に意見や要望がないか、聞いている。玄関に意見箱を設置はしている。また、毎月利用者の状況を手紙で報告はしている。家族より意見をもらえる様にはしている。	
			(外部評価) 食事時に使用するおしぼりは、利用者の「温かいおしぼりで手を拭くと気持ちいい」という希望があって、一年中温かいおしぼりを用意されている。ご家族の来訪時には、外出時の写真をお見せしたり、日頃の利用者の様子を報告して暮らしやケアについて要望をうかがっておられるが、現在は「任せます」と言われるご家族が多いようだ。管理者は今後、日程等を検討しながら「家族会を行ってみたい」と話しておられた。	ご家族は、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、ご家族と話し合いを重ねながらケアに取り組んでいけるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。一緒に活動するような機会等も増やして、理解や協力につなげてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、代表者も職員会に参加して、職員の意見や提案を聞いて、対応を行う様になっている。また、管理者が管理者会に出席して、代表者の意見を職員に報告している。また、職員の意見・提案を会社の運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 管理者は、チームケアについて、「報告・連絡・相談・確認」の大切さを日常的に職員に話しておられる。職員は毎月、個々に、イベントの企画や取り組みの案を考えて管理者に提出する仕組みを作っておられ、地域のイベントへの参加や受診帰りに買い物に立ち寄る等、職員のアイデアが取り組みにつながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者が、職員の状況・ホームの状況・変化を常に把握できるように努めている。状況にて、会社に報告・相談をしている。職員が、退職せずに長く働いてもらえるように努めている。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の希望にて、外部研修を受講している。研修報告を行い、職員同士で共有して、レベルアップを図っている。管理者が、職員一人一人の介護技術を把握して、向上できるように努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者が、包括支援センターでの連絡会に参加して、同地区の事業所と勉強会を通して、サービスの向上に取り組んでいる。また、地域密着サービス協会の勉強会にも出席して、交流はしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の要望を聞いて、安心して生活できるように努めている。会話の中から趣味や生活習慣等を聞いて、関係作りに役立て、不安な点がないか探っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者や家族の話を聞いて、これまでの経緯・生活状況を聞く事で、困っている事・心配事を安心して話してもらえような関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用前に利用者や家族と面会し、部屋の見学を行っている。アセスメントを元にその人にあった支援ができるように努め、職員も利用者の日常生活を観察して、その人にあった支援ができるように努めている。利用に関して、できないサービスがあることも、ご理解できるように伝えている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりできることを見極めて、無理のない様に職員と一緒にいき、暮らしを共にする事で、信頼関係・馴染みの関係を築いている。洗濯たたみ・お盆拭き・庭の水やりや草引き等を行っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の状態を月1回手紙で報告している。常に家族とは連絡を取り、利用者の希望を伝えたり、支援方法に関する事も報告している。利用者の生活習慣等も聞いて、支援に活かしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 幼馴染の友人が面会に来られる方もおられる。手紙などを出し、感謝していつまでも来てもらえるように努めている。日常の会話の中で、家族の話や懸命に生活していた頃の話聞く様に努めている。外出の機会を持ち、馴染みの場所に行くことができるように努めている。 (外部評価) 利用者の幼なじみの方が来られた時には、一緒に写真を撮って暑中見舞い等にして送る等されている。ハガキには、利用者職員からメッセージを書いて、訪ねて来てくださったこと等への感謝の気持ちを伝えられるようにサポートされている。又、年賀状をご家族や友人に出せるよう支援されている。以前、商店街によく出かけていた方は、時々出かけるよう支援しておられ、馴染みのお店の方が声をかけてくださったり、お友達と会うこともあるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士がお互いを理解して、共同生活を送られている。 職員が間に入り、利用者同士が関わりを持てるように支援している。トラブルになりそうな時は、早めに職員が間に入り、利用者とはゆっくりとお話して、理解してして頂いている。馴染みの関係作りが築ける様に支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されも必要に応じて、他のサービス機関・家族とも連絡を取り、利用経過がわかるように情報提供や相談できるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 基本情報を元に、日常生活の中で、何気ない会話や表情・声から本人の思い・訴えを受けめて、理解に努めている。 ゆっくりとした時間を持てるようにして、利用者の思いをくみ取れる様にしている。 (外部評価) 事業所独自で「私の気持ちシート」等、様式を作っておられ、利用者一人ひとりについて、身体面、楽しいと思うこと、不安、介護の願い等、7項目の情報を集めておられる。日々の介護記録は、24時間の時系列シートで「訴え状況欄」を設け、利用者のことばや、職員が気になったこと等も記録できるよう工夫されている。利用者の幼なじみの方が来られた際には、会話等の中から利用者の方の幼少期の様子や暮らしぶりを知ることでもできるようだ。入浴時、利用者は職員と一緒に歌を歌ったりしてコミュニケーションを図る場にもなっており、日頃の思いを打ち明けてくださる利用者の方もおられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様とご本人との会話の中から情報を汲み取り、アセスメントを大切にして、職員間で話し合い統一したケアに努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムにあわして、支援できるようにしている。職員同士が日々の記録を元に話しあいながら現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人と家族には、介護計画を説明し、確認印をもらっている。 本人や家族からアセスメントを行い、利用者の心身の状態を考慮して、どのような介護・支援が適切か、職員間で話し合っ、て、介護計画を作っている。3ヶ月に担当者が、ケアプランを評価している。</p> <p>(外部評価) 介護計画にもとづき、生活支援計画を作成しておられ、毎月のカンファレンス時には、利用者3名ずつ実施状況を確認してモニタリングされている。利用者個々の担当職員は、日々の介護記録をもとに、月ごとに気になることをまとめておられ、モニタリングにつなげておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) グループホーム日誌や介護日誌の記録を元に、申し送り・カンファレンスを行い、職員間で情報の共有を大切にしている。また、職員の気づきを元に職員間で共有して、支援につなげている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの要望・家族からの要望を聞きながら、できるように取り組んでいる。家族とも連絡はしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域資源を把握して、行事に参加できるように支援をしている。地域の方との交流ができるように支援している。今年は公民館行事に参加した。昨年は、地域の保育園児との交流も行った。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医療機関(樋野クリニック)から毎週木曜日に往診して頂いている。緊急時には随時の往診や医師からの指示によって、適切な医療機関につなげている。家族には連絡をして、報告している。 専門病院に受診されている方は、受診の支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者は現在、協力医療機関の医師に診てもらっている。夜間の発熱時等、利用者の体調に変化があった時は、連絡して対応を相談されている。歯科は、訪問診療で診てもらうこともある。眼科・精神科は職員が受診に同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 済生会訪問看護ステーションと契約をしている。週1回訪問して、健康状態を確認して、かかりつけ医に連絡している。緊急時には、訪問してもらい、状態確認もしてかかりつけ医に連絡している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者の入院時には、家族も同行して頂き、医療機関へ情報提供・経過・相談等を行っている。退院時も病院・家族と連絡して対応している。病院からの情報提供を頂いている。かかりつけ医とも退院後の相談も行き、ホームで生活できるように連携している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族の希望に沿った支援ができるように努めたい。90代の家族とは、終末期についての話は行った。ホームの指針を作成している。ホームでできないことがあるので、難しいところもある。 職員には、終末期を迎えるにあたり、勉強会は行った。 かかりつけ医が家族に終末期の対応を伝えてもらえるように連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 90歳を超える利用者については、今後のことについて、これまでに複数回ご本人やご家族、主治医と話し合う場を作り、方針を共有できるよう取り組まれている。事業所では、これまで看取り支援の事例はないが、管理者・職員とも「利用者の終末期を支えたい」という思いがあり、学習会を重ねておられる。先月の勉強会では、「終末期の状態の変化、レベルがどのように落ちていくか」について職員で勉強された。ご家族の協力が得られるように、宿泊ができるよう対応することも検討されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修・講習等に参加して、急変時の学習をしている。急変時にいち早く気付くようにホーム内でも勉強会を開いた。マニュアルを元に、訪問看護・主治医とも連絡を取れるようにして、指示をもらえる体制です。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、年2回の避難訓練を実施している。避難路も確認して、緊急時に備えている。災害時の避難先までは、利用者と歩いている。推進会議の時に地域の方とも避難路の確認も行った。現在は、各災害に対して、避難対策を検討している。	現在、災害時のマニュアルの他に、事業所では、「突然の災害時に役に立つよう、具体的な資料を作りたい」と考えておられる。さらに、今後は、地域の自主防災組織との連携等も模索していきたいと話しておられた。地域の方達とも話し合いながら、利用者、職員の安全安心に向けた具体的な取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 日頃から、地域の避難場所まで、よく散歩をされている。9月の防災訓練では、夜間の火災を想定し避難訓練を実施された。2階に居室がある利用者を職員がおぶって、1階へ避難させる訓練も行われた。利用者も一緒に水消火器を使って消火訓練をされた。地域の方が応援に来てくださった時に見やすいよう、事業所の見取り図と利用者の自立度を一覧表にされている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳・自尊心を大切にすることをいつも心がけている。もてなしの心を持って、取り組んでいる。	
			(外部評価) 調査訪問時、職員は利用者のとなりに座り、ゆっくり穏やかな態度で利用者へ接しておられた。ある時、利用者の不安がるような様子がみられたことがあったが、職員は、無理にその理由を聞き出すことはせず、ご本人の様子を観察したり見守りながら原因を探られた。居室の窓から見えるものに不安を感じておられることが分かり、管理者はご本人に居室を替えてみることを提案され、ご本人は移動することで落ち着いたようだ。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望に沿う形に好みや趣味を把握に努め、環境作りをして本人の時間に合わせて行動して頂いている。自己決定しやすい雰囲気作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) おしつけの支援にならない様に自尊心を大切にしたケアを心掛けている。利用者一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節にあった服装を選択して着られたり、利用者の希望で洋服を買いに行き、選んでもらっている。 散髪は、2か月に1度、理容店の訪問で散髪を行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの食事内容を把握する様に努めている。月に数回だが利用者から希望を聞いて、食事を提供している。お盆拭き・おしぼりたみ・おやつ作りなど、利用者と一緒に (外部評価) 普段の食事は宅配業者に依頼されているが、前回の外部評価や地域包括支援センターの方からのアドバイスを受けて、月2回、事業所で食事を手作りする日を設けておられ、利用者の希望等をお聞きして、ちらし寿司、そうめんや焼きそば等、手作りされている。利用者の誕生日には個別に回転寿司に出かけられたこともあり、利用者は、「楽しかった、また行きたい」と感想を話されたようだ。庭に作った畑でなすびを収穫して、利用者で漬けものを作り、楽しめたこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材は外注しているので、好き嫌いはあるが、栄養バランスは整っている。水分量は一日1500mlを目安にこまめにとって頂いて脱水にならない様にしている。嚥下困難がある利用者には、トロミ剤を使ったり、ゼリーを作っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方は、声かけ見守りを行っている。できない方は、職員が緑茶を使い、口腔ケア・マッサージを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別に排泄記録をチェックし、個別にトイレ誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、できるだけ自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 夜間、尿失禁がみられる利用者と相談して、ベッドサイドにポータブルトイレを置いてみることを試された。利用者の安心につながり、失禁が改善されたような事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分をこまめに摂って頂き、散歩・体操等を行って動かしている。乳製品を食べて、便秘が改善している方もいる。できるだけトイレに誘導して、排便を促している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介助の少ない利用者は、本人の希望する日時に入浴をして頂いている。介助の必要な利用者には、随時入浴の声かけを行い、心身状況を確認して入浴されている。自分で着脱・洗身ができるように声かけを行っている。入浴剤を使い、入浴を楽しめるようにしている。	
			(外部評価) 利用者個々に2日に1回、入浴できるよう支援されている。職員の介助で介護度が重度の利用者も浴槽で温まれるよう支援されている。同性介助を希望する方や夜間の入浴希望にも沿っておられる。職員は、利用者と買い物に行かれた際、入浴剤の新品や季節感のあるものを見つけると、利用者と相談して購入して楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその時の状況に合わせて、日中ソファで休んだり、居室にて休んで頂いている。散歩や体操・掃除をしてもらい、体を動かして、気持ちよく眠れる様に支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1週間分を仕分けして、職員が毎食時に個人別に抜き取り、服薬確認・記録を行っている。薬の変更・追加がある時は、職員が共有できるように記録をしている。また、いつでも薬の副作用等、情報確認ができるようにファイルに綴じている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎朝、モップを持ち床拭きをされる方、水やり・草引きをされる方、洗濯たたみをされる方など、できることを支援している。 一人の利用者が、人形を作りたいとの希望があり、人形作りを支援した。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調やその日の天候を考慮して、できる限り散歩・外出を行っている。あまり出たがらない方も声かけを行い、閉じこもりにならない様に支援している。馴染みの場所にも行けるように支援している。 (外部評価) 日常的な散歩の他に、今春は、手作りお弁当を持ってお花見に出かけられた。その取り組みが利用者にとっても喜ばれたことから、今月はコスモスを見に出かけようと相談されている。「道の駅」までドライブされたり、女性利用者は、個別に職員と洋服を買いに行かれることもある。100円ショップで自由に買い物できるような機会を作ったり、海がお好きな方がおられ、ドライブの帰り道に海をみて帰ることもある。ファストフードは利用者に好評だったこともあり、次は喫茶店に行ってみようと相談しているところである。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ゆずはなの里での金銭預かりは行っていない。 家族からおこずかいをもらって、買い物をされている利用者はおられる。買い物時には職員が同行して、お金の使い方など支援はしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 連絡を取りたい場合は、本人が連絡したり、家族から連絡があるときついでで会話できるように支援をしている。 文字をかける人ははがきを出して家族と交流している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関・ホールに花を飾ったり、廊下に季節の壁絵を飾ったり、写真を貼ったりして、季節感を感じてもらえるように工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民家改修型のグループホームで、建物の雰囲気も利用者の年代に馴染みがある造りになっている。縁側で利用者が自由に運動できるよう、歩行パーや木柵の昇降台を置いておられる。農業をされていた利用者を中心に、野菜の苗を立てて畑を作っておられ、水遣り等の世話をし、今夏はスイカやナスを収穫されたようだ。1階の居間の空間には限りがあるため、利用者の居室のふすまを開放してスペースを使用されている。調査訪問時には、その居室のベッドに横になって過ごす利用者の側に他利用者が腰をかけ、そっと声をかけてあげている様子がみられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が会話をしたり、テレビを見たりとすごしている。利用者同士、馴染みの関係ができるように気をつけて支援をしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>できるだけ、本人が使っていたものを持ち込みしてもらい、使い慣れた物を使って頂いている。人形・写真を居室に飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在、2階に居室がある利用者は、自力で階段を昇降されている。職員は、個々の足腰の様子を観察しておられ、転倒等の心配がある利用者は、1階の居室に移動してもらうよう相談されている。居室には、以前作った手芸品を飾っていたり、お気に入りの化粧品を職員と買いに行かれ、使用している方もおられる。自室のモップがけは、ご自分で行う方もいる。居間で過ごされる時にはご自分の居室の鍵をかける方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>階段が心配な利用者には、職員が付き添い安全に生活ができるように支援している。カレンダー・時計も見れる位置に置き、日時もわかるように工夫している。</p>	